## 《第10回》令和四年四月の作品

## 〈四月八日(金) 文京区民センター3 E >

次漢の泥に蠢く蝌蚪の群を攻める大国春の雷を攻める大国春の雷を攻める大国春の雷を変わる。  「の事もなきが宝や桜餅で活の野太き声や眠り裂くがざぐるま胸に秘めたる恋のことがである。  「の発のチョルノービリの春寒しが、は、い国を攻める大国春の雷が、  「おおいっとが、は、い国を攻める大国春の雷が、  「おいっとが、は、い国を攻める大国春の雷が、  「おいっとが、は、い国を攻める大国春の雷が、  「おいっとが、は、い国を攻める大国春の雷が、  「おいっとが、は、い国を攻める大国春の雷が、  「おいっとが、ことが、ことが、ことが、ことが、ことが、ことが、ことが、ことが、ことが、こ	( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (
R そりチョレハー・ゴークを実しれざぐるま胸に秘めたる恋のことがざぐるま胸に秘めたる恋のことが描の野太き声や眠り裂く	(m)
水草の緑揺らぎて雪解水	( 奉 男)
ギブス解け足取り軽し桃の花	(正雄)
原発のチョルノービリの春寒し	(前歩)
桜見のランチを妻とかに御膳	(孝昭)
浚渫の泥に蠢く蝌蚪の群	(隆治)

寸先見えぬ黄砂を兵馬行く

(清助)